

万葉図書・情報室だより 68号

新着図書紹介

万葉図書・情報室では『万葉集』をはじめ、日本の古代文化に関する資料、書籍を選書し、定期的に購入しています。今回は最近購入した書籍の中からいくつか紹介したいと思います。

①『日本書紀 全現代語訳＋解説

〈二〉神代―世界の始まり

(寺田恵子著／グッドブックス)

『日本書紀』は720年に完成した歴史書です。当時の大国であった唐に、法(律令)によって独立した国家として認められるためにあらわされました。全部で30巻もある膨大な書物です。そのうえ、原文はすべて漢文で書かれていますから、対訳を読みながらでも読むのは大変です。本書①では、

古、天地はまだ離れておらず、陰陽

もいまだ分かれてはいなかった。世界は、まるで卵の中身のようにすべてが一体であったが、その中に始まりのぎざしを含んでいた。……

のように、すべての現代語訳が載って

います。さらに、わかりやすく理解できるように解説もついています。『日本書紀』を一度読んでみたい！という方に最適です。

②『入門 日本書紀事典』

(瀧音能之監修／東京堂出版)

ただ、どうしてもわからない言葉も出てきます。その時は本書②を参考にして読まれるのもいいのではないかと思います。例えば「天孫降臨」「相撲の起源」など、『日本書紀』を読む時に気になる重要人物や事柄を100に絞って解説しています。1つの事柄が2頁から6頁でまとめられていて、事典と銘打っていますが、読み物としても読みやすく、興味深い内容です。

③『ビジュアル図鑑 日本の神々』

(志水義夫監修／カンゼン)

『日本書紀』には神々の名前が数多く出てきますが、似たような名前も多く、時に混乱することがあります。本書③では姿を一案としてイメージ化し、神々の属性と物語について説明してい

ます。現代のアニメーションのようなビジュアルに驚かれる方もいらっしゃるかもしれませんが、

字に振り仮名が付けられているので、お子さまから大人の方まで楽しめます。神々について理解を深めるのにおすすめの1冊です。



④『万葉集正義 第1』(万葉集正義編集委員会編／八木書店)

新しい『万葉集』の注釈書も入りました。國學院大學創立140周年記念事業の1つとして刊行された本書④は近世から現代に至る「国学(古典)」や同大学において蓄積されてきた研究を踏まえつつ、漢籍を中心に比較文学研究の知見を盛り込んでいます。今までの注釈書と見比べてみるのもいいですね。

⑤『ひらがなの世界―文字が生む美意識』(石川九楊著／岩波書店)

大河ドラマ『べらぼう』の題字を担当した書家がひらがなの不思議に挑んでいます。『万葉集』の舒明天皇国見歌の万葉仮名の使われ方などについても

言及しています。

⑥『桜の日本史年表―桜と日本人2000年の全文化史』

(井筒清次編著／河出書房新社)

古代から令和5年までの日本における桜関係の出来事を年表にまとめた本書⑥は今の季節にぴった



りです。他にもいろいろな資料・書籍がございます。もしご興味をお持ちになりましたら、飛鳥観光の合間にでも、ぜひ万葉文化館の万葉図書・情報室へお越しください。お待ちしております。

利用案内

図書室のご利用は無料です。閲覧でのご利用になります。

開館時間：午前10時～午後5時半

休館日：月曜日(祝日の場合は翌平

日)・年末年始・展示替日

コピーサービス：白黒 1枚10円

カラー1枚50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室

奈良県高市郡明日香村飛鳥10

0744・54・1850(代)